

野田・九条通信

2006年・9月号
NO10
「野田・九条の会」事務局
TEL 7122-0502

八月例会と活動の報告

パネル展「平和について改めて考える良い機会です」
感想文

小森陽一氏の講演会は十月十五日、北コミにて開催

八月例会は、第二土曜
日がお盆と重なったため
五日に開催しました。

例会には、「会」の運
動を更に発展させるため
新しく呼びかけ人になっ
ていただいた、関綾子さ
ん(画家)にも出席をい
ただきました。

内容は、終戦記念日に
合わせた「じっくり考え
よう平和への一週間」の
取組みと準備。さらに、
市民の過半数署名をめぐ
す「九条を守ろう」の署
名運動などについて話し
合われました。

すばらしい感想文が
寄せられたパネル展

場所が「樺のホール」
三階ギャラリーのため、
通りすがりの人が少ない
なかで、小学生を含めて
二百二十一名の方に見て
いただきました。

「びっくりした。言葉
が無い」との感想文を始
め、「写真によるパネル
展は後の世代に伝える力
がある。平和について改

めて考える良い機会でし
た」とのすばらしい感想
文が数多く寄せられました。

北部公民館では、「憲
法が危ない」と題して田
中淳哉弁護士から、憲法
改悪を巡る動きやその狙
いなど、分かりやすい話

九条への想い 関 綾子(画家) 野田・九条の会 呼びかけ人
老いた私のねがい



しをして貰いました。又、
詩人会議の方々による詩
の朗読もあり、じっくり
平和を考える一週間に
なつたと思います。

「九条の会」事務局長
を務める小森陽一氏の講
演会が確定しました。

◎場所：北コミ講堂にて
◎日時：十月十五日午後
詳しくは次号でお知らせ

昭和二十年八月十五日、
長い戦争の終わりを告げ
る天皇の声、初めて国民
に語りかける神の声に人
々の心は灼熱の中で凍る
思いで立ちつくす。

だがその悲しみは、次
第に安堵感に変わってい
った。夜も電灯はつげら
れる、蒲団に寝られる、
焼夷弾も原子爆弾も落ち
てこない、ああ良かった。

一九五二年日本は独立
しやがて憲法を作った。
戦争を放棄した日本国憲
法が生まれたのだ。第九
条の中に「日本国民は正
義と秩序を基調とする」

とある。しかし正義とい
う言葉に、私は又戦争を
思い出した。それは戦時
中、朝から晩まで聞かさ
れた言葉。日清・日露そ
して太平洋戦争へと、戦
争の世紀を貫いたその言
葉だからだ。

ここにきて九条を見直
そうの声が大きくなって
来た。無気味なことであ
る。あの戦争の恐ろしさ
を忘れてしまったのか。
戦争で味をしめた一部の
人の思いか、はたまた悲
惨な状況を知らない世代
が多くなってきたからな
のか。九条が窮状になら
ない為、力を尽くして九
条を守り続けて行こう。

老いた私達には繋ぎと
める力が無い。若い人よ
どうか非戦の思いを込め
て、九条の太い鎖をもっ
と強く握り締めていって
下さい。お願いします。

◎「戦後61年が経過し、
直接戦争の被害に会っ
た人々が少なくなり、
その時のことを語り継
ぐのも今後難しい。そ
ういう意味で当時の写
真によるパネル展は、
後の世代に伝える力が
あると思う。平和につ
いて改めて考える良い
機会でした」

◎「背中が焼けた少女の
写真で涙が出てきまし
た。子どもは戦争に行
くのヤダと言っていてい
ます。九条を守るため、
やれることを今やって
行きましょ」

◎「戦争や原爆でたくさ
んの人が死に、苦しん
だと言うこと。私は実
際に体験したわけでは
ありませんが、苦しい
思いをした人達のこと
を考えると、心が痛く
なりました」

◎「実に残酷だ。なんで
戦争で人はこんなにも
ひどくなるんだろう」

◎「戦争や原爆でたくさ
んの人が死に、苦しん
だと言うこと。私は実
際に体験したわけでは
ありませんが、苦しい
思いをした人達のこと
を考えると、心が痛く
なりました」

◎「戦後61年が経過し、
直接戦争の被害に会っ
た人々が少なくなり、
その時のことを語り継
ぐのも今後難しい。そ
ういう意味で当時の写
真によるパネル展は、
後の世代に伝える力が
あると思う。平和につ
いて改めて考える良い
機会でした」

◎「背中が焼けた少女の
写真で涙が出てきまし
た。子どもは戦争に行
くのヤダと言っていてい
ます。九条を守るため、
やれることを今やって
行きましょ」

◎「戦争や原爆でたくさ
んの人が死に、苦しん
だと言うこと。私は実
際に体験したわけでは
ありませんが、苦しい
思いをした人達のこと
を考えると、心が痛く
なりました」

◎「実に残酷だ。なんで
戦争で人はこんなにも
ひどくなるんだろう」

パネル展
感想文

◎寄せられた感想文の一
部を紹介しました。